

6.皮膚障害を起こしやすい抗がん剤について ― 一覧表を示します

同じ皮膚症状でも薬の種類や投与量によって、頻度が異なります。また、同じ薬でも症状の程度は個人差があります。下記の表ではこの小冊子の中で紹介している症状に絞って、薬別に起こりやすい皮膚症状をまとめました。

◆◆◆殺細胞性の抗がん剤(*)◆◆◆

(*)殺細胞性の抗がん剤とは・・・

細胞が分裂して増える過程に作用する抗がん剤。細胞増殖の盛んな細胞を障害します。

一般名※	商品名※	皮膚に関する副作用	対象となるがんの種類
フルオロウラシル	5-FU	手足症候群、色素沈着、爪の変化、掻痒感	胃がん、大腸がん 乳がん、子宮頸がん
カペシタビン	ゼロータ	手足症候群、色素沈着、皮膚乾燥、落屑、爪の変化、掻痒感	乳がん、胃がん 大腸がん
テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	ティーエスワン (TS-1)	手足症候群、色素沈着、皮膚乾燥、落屑、爪の変化	胃がん、大腸がん 非小細胞肺癌 乳がん、頭頸部がん、膵臓がん、胆道がん
テガフル・ウラシル配合カプセル剤 テガフル(腸溶)・ウラシル配合顆粒剤	ユーエフティ配合カプセル ユーエフティE配合顆粒	色素沈着、手足症候群、爪の変化	頭頸部がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆のう・胆管がん、膵臓がん、肺がん、乳がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮頸がん

一般名※	商品名※	皮膚に関する副作用	対象となるがんの種類
シタラビン	キロサイド	発疹、手足症候群 (高用量)	急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫
ドキソルビシン	アドリアシン	色素沈着	悪性リンパ腫、肺がん、消化器がん 乳がん、膀胱腫瘍、骨髄腫、など
エピルビシン	ファルモルビシン	色素沈着、掻痒感、 爪の変化(色)	急性白血病、悪性リンパ腫、乳がん、 卵巣がん、胃がん、肝臓がん、 膀胱がん、腎盂・尿管腫瘍
ドセタキセル	タキソテール	手足症候群、色素沈着、 爪の変化	非小細胞肺がん 乳がん、卵巣がん 子宮体がん、前立腺がん、 頭頸部がん、食道がん、 胃がん
パクリタキセル	タキソール パクリタキセル	発疹、色素沈着、手足症候群、 皮膚乾燥、爪の変化、掻痒感	非小細胞肺がん 乳がん、卵巣がん 子宮体がん、胃がん
パクリタキセル (アルブミン懸濁型)	アブラキサシ	発疹、爪の異常、手足症候群、 皮膚乾燥、色素沈着	乳がん、胃がん、 非小細胞肺がん 膵臓がん

一般名※	商品名※	皮膚に関する副作用	対象となるがんの種類
エトポシド	ベプシド ラストット	発疹	小細胞肺癌、悪性リンパ腫、急性白血病、睾丸腫瘍、膀胱がん、など
メトトレキサート	メソトレキセート	色素沈着、光線過敏症、ざ瘡	肉腫、急性白血病、悪性リンパ腫
ドキシルビシン	ドキシル	手足症候群、発疹、色素沈着、爪の変化	卵巣がん、エイズ関連カポジ肉腫
ブスルファン	ブスルフェクス マブリン	発疹、紅斑、色素沈着、掻痒感	慢性骨髄性白血病
プレオマイシン	プレオ	発疹、色素沈着、爪の変化	皮膚がん、頭頸部がん、肺癌、悪性リンパ腫、食道がん、子宮頸がん、神経膠腫、甲状腺がん、など
シスプラチン	シスプラチン プリプラチン ランダ	発疹、色素沈着、掻痒感	肺癌、消化器がん、婦人科がん、泌尿器系のがん、など

